



山科植物資料館へようこそ



山科植物資料館は、1934年（昭和9年）、回虫駆除剤サントニンを含有するミブヨモギの「山科試験農場」としてスタートし、「山科2号」が開発されました。

1953（昭和28）年には本館が建設され、「山科薬用植物研究所」が開設されました。これによりミブヨモギをさらに遺伝学的観点から研究し、より優良な品種を開発すること、および医薬開発のための植物研究が可能となりました。パキスタンから導入したクラムヨモギの育種、ミブヨモギとクラムヨモギを交配したペンタヨモギ、ヘキサヨモギが開発されました。

1994（平成6）年、「山科植物資料館」と改称し、研究用にこれまで50年以上にわたり収集されてきた世界の有用植物を系統保存する施設となりました。以来、今日までに世界各地から収集した3000種を越す薬用・有用植物を栽植しています。

日本新薬は、植物を原料とする医薬品や機能食品素材を製造・販売しています。ここ山科植物資料館では、それらの原料となる植物のほか、世界各地から収集した3000種を越す薬用・有用植物を栽植しています。ぜひ一度ご来館ください。（ご来館には予約が必要です。）

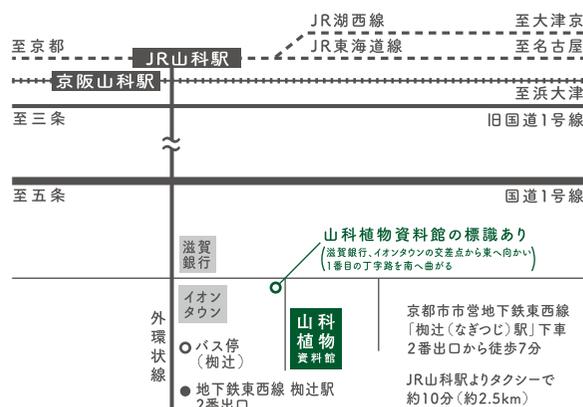
山科植物資料館の歴史

- 1919年（大正8年） 日本新薬株式会社創立
- 1927年（昭和2年） サントニン含有植物の種子を入手
- 1934年（昭和9年） ミブヨモギの品種改良を目的に、「山科試験農場」を開設
- 1950年（昭和25年） 山科2号の増殖・各種薬用植物の収集を開始
- 1951年（昭和26年） クラムヨモギの改良に着手
- 1953年（昭和28年） 山科試験農場を改称し、「山科薬用植物研究所」を開設
- 1960年（昭和35年） ミブヨモギとクラムヨモギの交配に成功
- 1965年（昭和40年） 海外植物園と種子交換開始（2018年3月まで）
- 1974年（昭和49年） 大温室新設
- 1985年（昭和60年） ヨモギの新種「ペンタヨモギ」「ヘキサヨモギ」が植物特許第一号を取得
- 1994年（平成6年） 「山科植物資料館」と改称
- 2000年（平成12年） セミナールーム竣工
- 2006年（平成18年） ミブヨモギ記念館竣工
- 2017年（平成29年） 公益社団法人日本植物園協会よりアボック・カルタ賞を受賞
- 2019年（令和元年） 京都の希少な動植物の保全と再生を推進する「京の生きもの・文化協働プロジェクト」に登録認定
- 2019年（令和元年） ミブヨモギ記念館リニューアル

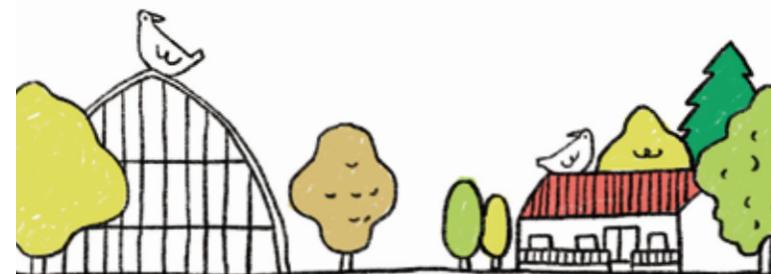


山科植物資料館 Yamashina Botanical Research Institute

〒607-8182 京都市山科区大宅坂ノ辻町39
日本新薬（株）山科植物資料館
TEL 075-581-0419（平日 9時～17時）
FAX 075-592-7199
<https://yamashina-botanical.com/>



山科植物資料館 Yamashina Botanical Research Institute





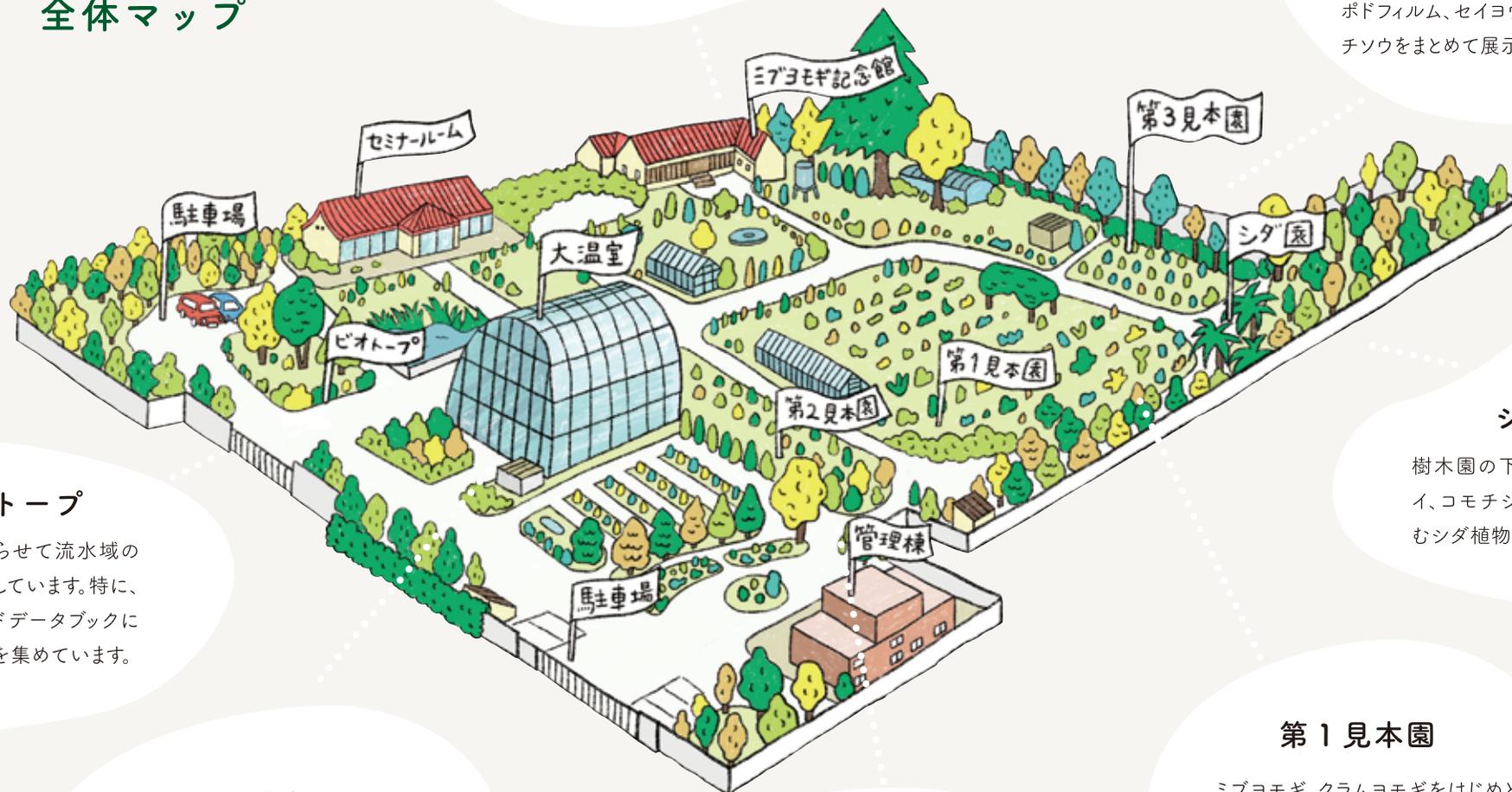
山科植物資料館 全体マップ

ミブヨモギ記念館

当記念館は、日本新薬が大きく飛躍する原動力となった、回虫駆除剤「サントニン」の原植物「ミブヨモギ」に因んで「ミブヨモギ記念館」と名づけられました。館内には、日本新薬の歴史をはじめ当社が展開する活動を紹介しているほか、希少な植物種などを展示しています。

第3見本園

ダマスクローズ、ミント類など香り豊かなハーブを展示しています。また抗がん剤の原料となるカンレンボク、ポドフィルム、セイヨウイチイ、ニチニチソウをまとめて展示しています。



ビオトープ

池の水を巡らせて流水域の植物を栽植しています。特に、京都府レッドデータブックに所載の植物を集めています。

大温室

かまぼこ型が特徴的な温室です。熱帯の薬用植物、果樹などの有用植物を展示しています。国内最古級のキシウテンガイもあります。

第2見本園

薬用というよりも、いわゆる健康食品やハーブ、野菜などの食用植物や、繊維、工芸などの有用植物を展示しています。

シダ園

樹木園の下に、ワラビ、ゼンマイ、コモチシダなどの日陰を好むシダ植物を集約しています。

第1見本園

ミブヨモギ、クラムヨモギをはじめとする薬用植物を展示しています。日本薬局方に収載される生薬の基原植物を主に集めています。



世界の植物をぎゅっと濃縮

大温室

ビンロウ、ニッケイなどの薬用植物、パパイヤ、バナナ、スターフルーツなどの果樹、それにキソウテンガイ、トゲオニソテツなどの絶滅危惧植物など、熱帯、亜熱帯から砂漠の植物を、植物園にしては小さな敷地に詰め込んだ、中身の濃いエリアです。



京都府の絶滅危惧植物たち

ビオトープ

京都の山野に自生するおよそ50種類の植物を栽植しています。オケラ、オグラコウホネ、タニジャコウソウ、ヒキノカサなど、このエリアの7割が京都府レッドデータブックに掲載されています。

ミブヨモギ記念館

MIBUYOMOGI MUSEUM

ミブヨモギ記念館は、1953年に建てられた研究施設を改築し、2006年に完成、2019年日本新薬創立100周年を記念して内装のみリニューアルし、当時の面影は残したまま、60年以上の歴史を思わせる落ち着いた佇まいとなっています。

当館は、日本新薬が大きく飛躍する原動力となった、回虫駆除剤「サントニン」の原植物「ミブヨモギ」に因んで「ミブヨモギ記念館」と名づけられました。

ここでは、当社が創業以来今日まで歩んできた、その時々
の出来事や発売品目を紹介する歴史のほか、核酸医薬品を
はじめとする医薬品の研究開発を動画やパネルで紹介する
スペース、日本新薬こども文学賞など当社が展開する社会
貢献活動を紹介するスペースを設けています。

また、山科植物資料館で栽培されている希少な植物種
や絶滅危惧種の展示や、創部60年以上の硬式野球部の歴
史にも触れています。



ミブヨモギ *Artemisia maritima subsp. monogyna*

昭和の初め、回虫駆除剤「サントニン」は100%輸入に頼っていました。そこで日本新薬は1927年、ヨーロッパから導入した *Artemisia maritima subsp. monogyna* の種子2gを育て、サントニンの成分を抽出することに成功しました。この記念すべき植物を当時の会社所在地「壬生」に因み、「ミブヨモギ」と名付けました。その後山科試験農場において本格的に改良試験が行われ、サントニン含有量の高い優良品種「山科2号」の作出に成功しました。こうして生まれた国産サントニンは日本から回虫感染を駆逐し、国民の健康づくりに貢献しました。また戦後導入したパキスタン原産のクラムヨモギ (*Artemisia kurramensis*) とミブヨモギを人工交配して得られた優良品種ペンタヨモギ、ヘキサヨモギは、植物特許国内第1号として知られています。

山科植物資料館の 絶滅危惧種

1953年の「山科薬用植物研究所」の発足から現在に至るまで、世界中から収集してきた山科植物資料館の植物コレクションは、約3,000種に至っています。その中には現在では絶滅が危惧される植物も多数含まれています。これらの植物を保護していくことは、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) に貢献しています。



ここでは、ワシントン条約(絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約)、環境省指定のレッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)、京都府レッドデータブック(京都府の絶滅のおそれのある野生生物の現状をまとめた資料集)に掲載される植物種のうち、山科植物資料館の保有する植物を紹介します。これらの植物種は合計して487種に及んでいます。



キソウテンガイ



ムラサキ



オニバス



フジバカマ



タチバナ



モウシロカイ



セツブンソウ



キクタニギク

ワシントン条約の規制対象植物

- イチイ科
イチイ、キャラボク、キミノオンコ
- ウエルウィッチア科
キソウテンガイ
- カナボウノキ科
アリウボク
- キョウチクトウ科
インドジャボク、ハリキョウチクトウ
- クサスギカズラ科
モウシロカイ、サボンロカイ、ホンアロエほか
- サボテン科
ウパタマ、キンジャチ、ピタヤ、ウチワサボテンほか20種
- ジンショウゲ科
シナジンコウほか1種
- ナンヨウスギ科
チリマツ
- ハマビシ科
ユソウボク、バハマユソウボク
- メギ科
ヒマラヤハッカクレン
- ラン科
パニラ、サギソウ、セッコクほか71種

他 18科33種

京都府レッドデータブック所載植物

- アカネ科
イカギカズラ
- オオバコ科
イヌノフグリ
- ガマ科
ミクリ
- キキョウ科
キキョウ
- キク科
オケラ、キクタニギク、フジバカマ、シマカンギク、ホソバオグルマ
- サクランボ科
クリンソウ
- シソ科
カリガネソウ、コムラサキ、タニジャコウソウ
- スイレン科
オニバス、オグラコウホネ
- タコノアシ科
タコノアシ
- ナス科
ハシリドコロ
- バラ科
カワラサイコ、コバナノワレモコウ、ハマナス
- ムラサキ科
ムラサキ

他 14科17種

環境省レッドリスト所載植物

- アカネ科
ヤエヤマアオキ、シショウゲほか2種
- アヤメ科
カキツバタ、キリガミネヒオウギアヤメ
- イタバコ科
マツムシソウ
- オオバコ科
イヌノフグリ、スズカケソウほか2種
- カキノキ科
ヤエヤマコクタン
- ガマ科
ミクリ、ヒメミクリ
- キキョウ科
キキョウ、バアソブほか2種
- キク科
キクタニギク、イワヨモギ、フジバカマほか7種
- キンボウゲ科
オキナグサ、セツブンソウ、ミスミソウほか3種
- スイレン科
オニバス、オグラコウホネ、ヒメコウホネ
- タコノアシ科
タコノアシ
- タデ科
キブネダイオウ
- ナデシコ科
マツモトセンノウ
- ハマビシ科
ハマビシ
- ボタン科
ヤマジャクヤク
- マチソコ科
チトセカズラ
- マメ科
タデハギほか3種
- ミカン科
タチバナ
- ムラサキ科
ムラサキ
- ラン科
エビネ、セッコク、シラン、ムカデランほか17種

他 55科119種